

## ■「環境公共」事例紹介

### ふるさと水土里ふれあいの旅 2022

令和4年6月23日（木）に青森市の奥内土地改良区管内で環境公共推進プロジェクト「ふるさと水土里ふれあいの旅 2022」を開催しました。

この活動は青森北部、青森第二北部、奥内の3土地改良区が主催したもので、地元の小学生に農業水利施設や水源林の役割を理解してもらうことを目的としています。

はじめに参加者は大堤ため池へ向かいました。

ため池は農業用水を貯える働きがあることや、ため池で遊ぶのは危険だということの説明がありました。

また、東青地域県民局林業振興課から、「山は水を貯え、その水がゆっくりと流れることでダムの役割を果たしている」という、水源林の説明もあり、参加者は真剣な表情で説明を受けていました。

次に、ため池の水質調査と、ため池に生息する生き物観察を行いました。

水質調査では水温、透視度、pH、CODを測定しました。

生き物観察では、環境公共プロフェッショナルの工藤智さんが、ため池やその周辺で捕獲したギンブナやオオタニシ等の水生生物について説明しました。

参加者は普段なかなか見られない生き物を近くで観察することができました。



開会式での集合写真



大堤ため池での説明の様子



水質調査の様子



環境公共プロフェッショナル工藤さんによる説明（大堤ため池）

大堤ため池を後にし、1号ポンプ場へ向かいました。

ここではポンプによってくみ上げられた地下水が地域内の水田へ流れ、稲作に利用されているということを教えてもらいました。

続いて、青森市北部地区農村環境改善センターで東青地域県民局農村計画課から環境公共に関する説明がありました。

説明では水は暮らしの中で循環していることや、農業は自然や文化を保全する役割があることを学びました。



環境公共の説明の様子

そのあと、豊源頭首工へ移動し、頭首工の役割について説明を受けました。

説明の際にゲートの開閉の様子を見学しました。

川を堰止めているゲートが転倒し、水が勢いよく流れ出すと大きな歓声が沸き起こりました。



ゲートが転倒し、水が流れる様子

説明を受けた後、大堤ため池と同様に水質調査、生き物観察を行いました。

水質はどちらも稲作に適した数値であることがわかりました。水温は大堤ため池よりも豊源頭首工の方が低いことがわかりました。

生き物観察ではイワナやカワニナ（巻貝の一種）など大堤ため池とは異なる生物を見ることができました。

環境公共プロフェッショナルの工藤さんから「ホタルの幼虫はカワニナを餌とするため、ホタルが近くにいても見えない」という説明があり、参加者は興味深そうに耳を傾けていました。



豊源頭首工での水質調査

最後に、地区内の水路でアヒルレースを行いました。

アヒルレースというのは、思い思いの模様を描いたアヒルのおもちゃを約 900mの直線の水路に流し、順位を競いながら水路にはどれくらいの速さで水が流れているかを考える競技です。

レースの途中で順位が入れ替わると、参加者からは歓声が沸き起こっていました。

レース終了後には「アヒルレースをまたやりたい!」といった声もあり、大盛況のうちに幕を閉じました。



アヒルレースの様子

今回開催した「ふるさと水土里ふれあいの旅」では田んぼやその周辺には豊かな自然や美しい景観が広がっていることを学ぶことができました。

参加したみなさん、お疲れ様でした。

「環境公共」HP

<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

